

トレハロースの長距離輸送 4割を鉄道コンテナで

岡山県岡山市に本社を置くナガセヴィータ(株)は、食品原料・医薬品原料・化粧品原料などを開発・製造・販売するバイオメーカーだ。1883(明治16)年に水飴の製造からスタートし、昨年創業140周年を迎えたのを機に、今年4月、社名を(株)林原からナガセヴィータ(株)に変更した。

主力製品は多機能糖質トレハロース(製品名『トレハ®』)。1994年に同社が世界で初めてでん粉から大量に生産する技術確立し、国内外の市場で高いシェアを占めている。甘味度は砂糖の38%で、食品の美味しさや食感の良さを長く保つと



でん粉由来の甘味料『トレハ®』

いったさまざまな機能を持ち、菓子類やパン・弁当など幅広い加工食品等に利用されている。賞味期限は製造日から12カ月間、室温保存が可能だ。

エコルールマーク認定を取得

ナガセヴィータでは従来、製品の輸送に鉄道コンテナを活用してきたが、昨年11月、「エコルールマーク取組企業」および『トレハ®』の「エコルールマーク商品」の認定を取得した。

サステナビリティ経営部門 サプライチェーン部の影山浩志物流課長は「鉄道コンテナへの切り替えは長年取り組んでおり、社名変更のタイミングで取得できました。WEBサイトや企業レポート等にエコルールマークを掲載し、当社のマテリアリティの1つ、環境負荷低減の取り組みとして紹介していく予定です」と説明する。



24時間稼働する岡山機能糖質工場



影山課長

1990年頃は北海道と南九州向けの輸送は鉄道コンテナを利用していたが、その他の地域では、ほとんどがトラックによる輸送だった。転機は1995年の阪神・淡路大震災。物流麻痺を経験したことを教訓に、在庫・輸送体制の見直しを行い、特に長距離輸送を鉄道にシフトしていったという。

「当時は岡山から北関東へのトラックチャーター便で翌日配達が可能でした。輸送リードタイムが長い鉄道コンテナを浸透させるまで時間はかかりましたが、小口注文の集約や顧客の荷受け状況を確認しながら、少しずつトラック輸送から切り替えました」と経緯を説明する。

次第にモーダルシフトの意識も社内に行き渡り、営業および受注担当も「倉庫を新設する計画がある」「小口の注文頻度が増えている」といった切り替えにつながる情報を共有し、顧客と本社、双方にとって最適な提案を検討しているという。

「新しい社名の『Viita(ヴィータ)』は『生命・暮らし』を意味するラテン語『Vita』に『i』を加えた造語で、並んだ『ii』は共生・共創を表しています。社名の通り、それぞれの顧客の状況に寄り添ってモーダルシフトを進めています。2023年度は500km以



原料のでん粉を専用倉庫に搬入

上の長距離輸送のうち鉄道の割合は4割以上。今やなくてはならない輸送手段です」と明かした。

倉庫の在庫補充と大口の製品出荷にコンテナを利用

岡山機能糖質工場(岡山市北区)で製造する『トレハ®』は、岡山・大宮・札幌にある倉庫で保管し、全国の菓子原料の問屋や食品メーカーの倉庫、パン工場等へ出荷する。

鉄道コンテナを利用するルートは主に、岡山の工場から大宮・札幌の倉庫への在庫補充と、岡山の倉庫から12ftコンテナ単位の注文がある顧客向け。

在庫補充は同社物流課の担当者が、大宮・札幌の倉庫の在庫量を確認しながら、利用運送事業者の日本通運(株)に集貨を依頼する。札幌の倉庫向けは岡山(夕)から札幌(夕)を着駅に1カ月あたり12ftコンテナ8~10個、大宮の倉庫向けは越谷(夕)などを着駅に31ftコンテナ10~12個を送り込む。12ftコンテナに20kg入りの紙袋40個を積んだパレットを最大6枚、31ftコンテナは最大15枚を積載する。

岡山の倉庫から出荷する顧客向けは基本的にバラ積みで、12ftコンテナに最大250袋を積載する。

「現在パレット化を進めています。積載効率は若干落ちますが、荷役時間が削減できます。また、パレットごとにフィルムで固定するので輸送中の破損事故が減り、その影響により廃棄削減も期待できます」と影山課長。

奈良県の委託工場で生産する麦芽糖『サンマルト®』、千葉県委託工場の水飴『ハローデックス®』の輸送でも鉄道コンテナを活用している。



岡山(夕)に向かう日本通運の集配トラック

食品安全の確保にも

岡山機能糖質工場ではISO9001、FSSC22000(食品安全の国際規格)等を取得している。「食品メーカーも近年異物混入など食品安全に敏感です。鉄道コンテナはトラックチャーター便と同じく、工場および保管している倉庫で積み込み後、コンテナの扉を封印し、顧客の工場や指定倉庫での荷下ろしまで開扉しません。鉄道コンテナの比率を上げることは、食品安全の確保にもつながります」と鉄道コンテナのメリットを挙げる。

同社は2030年までに、長距離輸送における鉄道シェア5割以上を目指す。影山課長は「鉄道コンテナの輸送枠を確保しやすいよう出荷スケジュールに余裕を持たせていますが、需要の多い方面や繁忙期は運べないことも。昨年6月に決定した政府の『物流革新に向けた政策パッケージ』を踏まえ、各業界がモーダルシフトを含む自主行動計画を掲げています。今後さらに鉄道コンテナを確保しにくくなるかもしれません。輸送枠を確実なものにするためにも、輸送情報を早めに提供していただければ」と要望した。



コンテナ2個積みトラックが出荷場に到着

積載前にコンテナ内を清掃

自動倉庫から搬出



11型パレットに20kg入り40袋積載

両側から6パレットを積み込む

扉に封印環を付け目的地まで施錠